

# 保養に関するアンケート調査 2021 年 報告書

311 受入全国協議会加盟団体へのアンケート	…… p.01
保養プログラム利用者へのアンケート	…… p.08
資料 <3.11> の始まりから10年を迎えて	…… p.17

311 受入全国協議会 相談会ワーキンググループ事務局



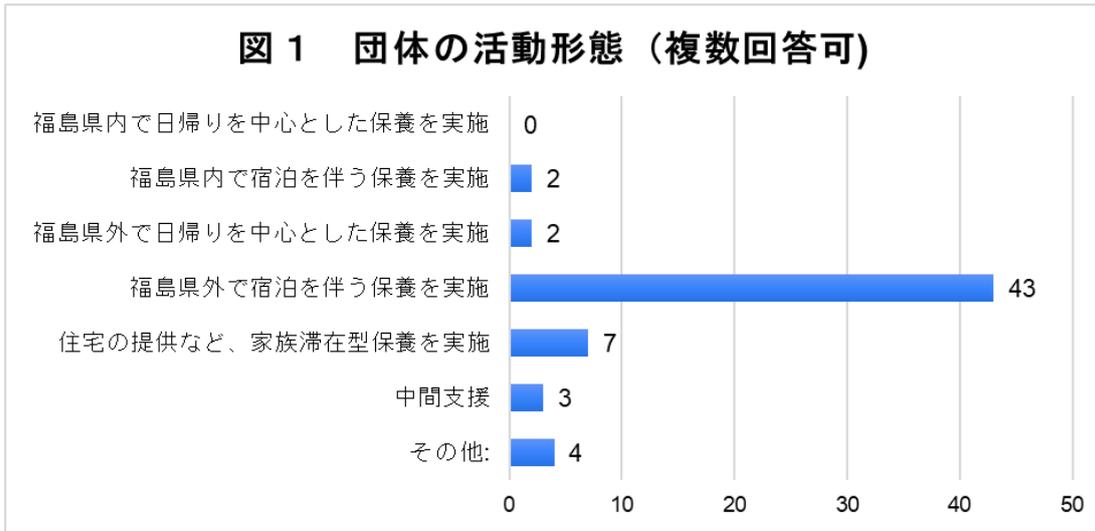
311受入全国協議会

<http://www.311ukeire.net/>

# 311 受入全国協議会加盟団体アンケート

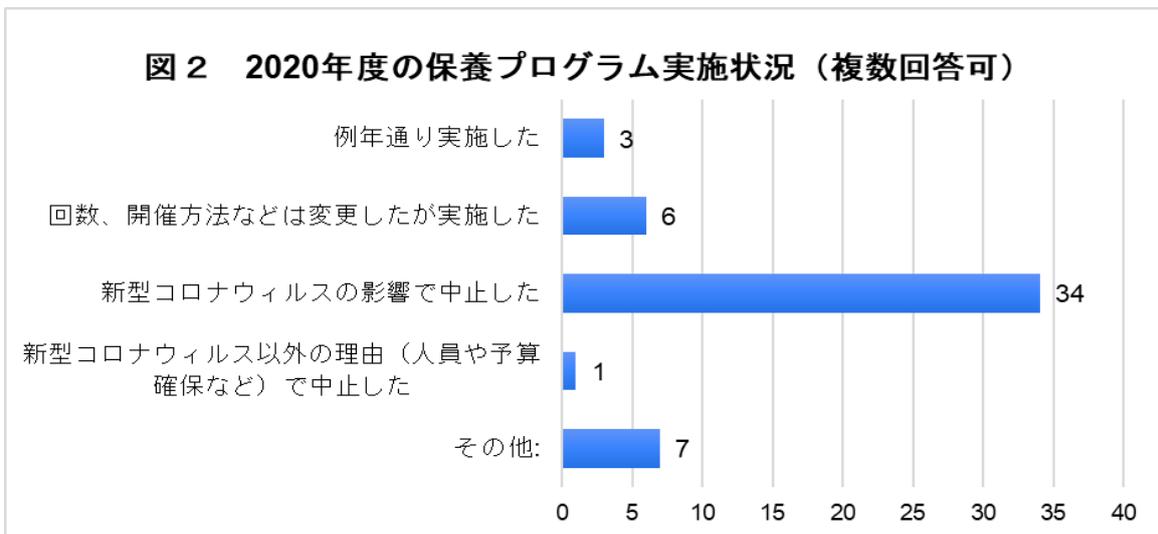
- ・調査期間…2021. 01.14～02.19
- ・調査対象者…「311 受入全国協議会」加盟団体+「ほよ～ん相談会」「ほよっと交流会」参加団体
- ・回答人数…46 団体名

## 1. 団体の活動形態



その他：岡山在住の避難移住者の支援  
避難者の小・中・高校生への学習支援  
香川の人たちが福島の現状を知るための講演会、上映会  
チャリティウォーク、保養応援コンサートなど

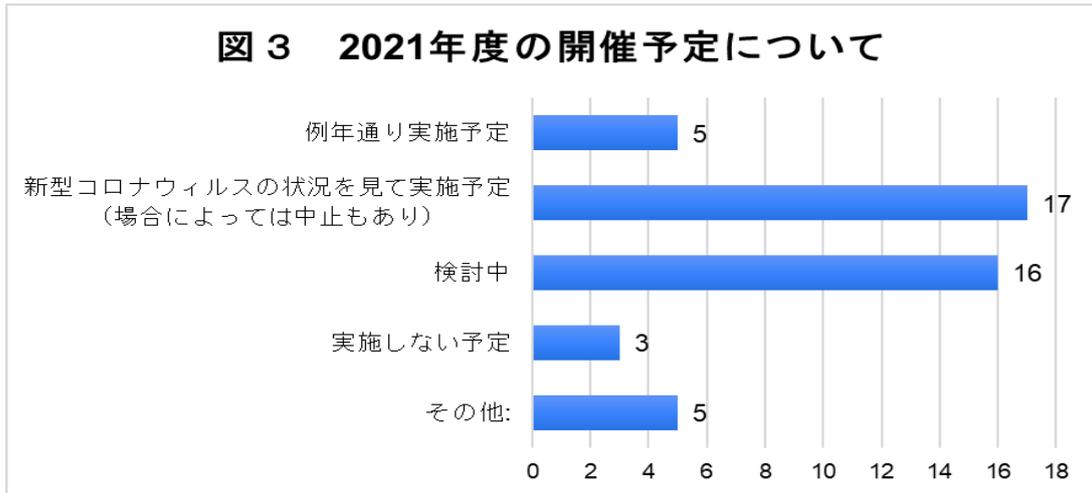
## 2. 2020 年度の保養プログラム実施状況



その他：うけいれ全国および保養団体への中間支援、情報提供、相談対応などを実施

講演会などはオンラインを活用して開催。  
 オリンピックの開催期間と重なるため延期の予定でしたが、コロナもあり中止した。  
 コンサートは中止、秋のチャリティウォークは実施した。  
 ○○町の希望により中止した。  
 避難者の小・中・高校生の日帰りリフレッシュ保養のみ実施

### 3. 2021 年度の開催予定について



その他：民間の助成金事業が20年度で廃止となり、資金面で見通しが立たない。

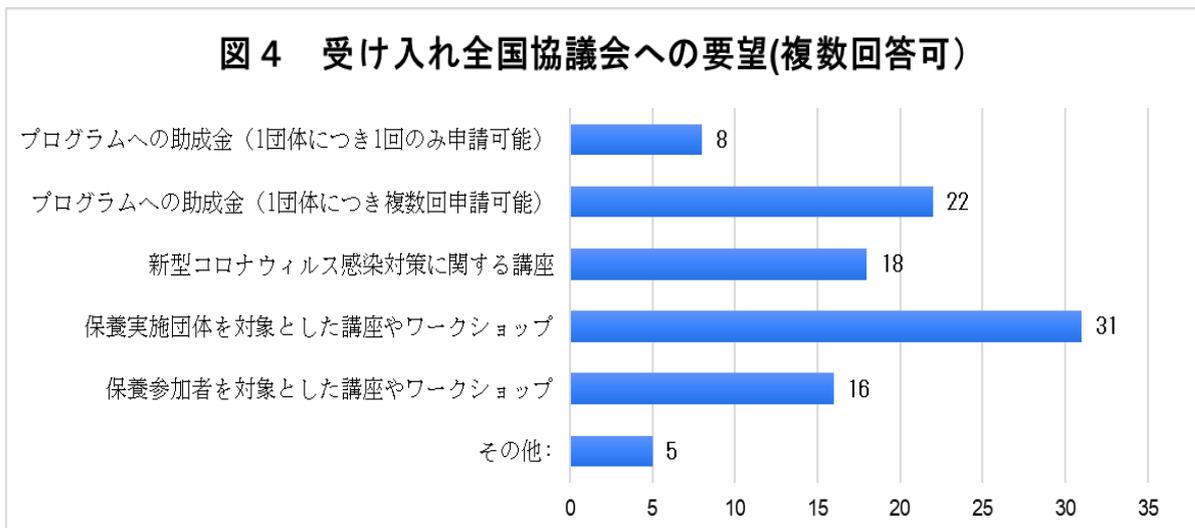
例年10組の家族を招いていますが、今年は3組ずつ2回に分散して密を避けて実施予定。

中間支援は継続、保養については検討中。

幼かった子どもも成長しており、成長した視点からの現状を報告する形で実施したい。

チャリティウォークは実施予定。

### 4. 今後、311 受入全国協議会で実施してほしいこと



その他：会の解散を予定していますので、メッセージ発信の機会を与えてください。

今後の活動予定が不明なため特にありません。特になし。  
全国の団体との情報交換、意見交換。

## 5. 311 受入全国協議会および全国の保養団体へ聞きたいことや共有したい情報

### <概要>

1. 保養のニーズと被災地の現状を知りたい。
2. 活動資金やスタッフの確保、参加者との繋がりや維持などの方法を知りたい。
3. 保養活動ができないためオンラインでも交流会やこれまでの活動のまとめ（記念誌の発行など）などに取り組んでいる、取り組む予定という団体もある。
4. コロナへの対応、コロナ後の活動のあり方について悩んでいる。
5. 全国の団体との交流・情報交換を希望している。

### <具体的な意見>

#### (1) 保養のニーズに関するもの

- ・保養のニーズがどの程度あるか。
- ・今のコロナの状況で保養活動へのニーズはどれほどあるのか。
- ・このコロナの状況のなか、実施する側が問題なしと判断しても、保養参加希望者はどのくらい不安があるものなのか。躊躇するものなのか。
- ・繋がっている保護者からは、行きたいし出したい気持ちはあるが、今現在の状況が続くようでは周囲の目が気になって出かける事ができない、との連絡があった。
- ・すでに今の小学生たちは原発事故を知らない世代となってきました。彼らへ必要な「保養」とはなんでしょうか。保養活動が続けている方々のご意見を伺いたい。
- ・原発事故から10年経った今も、福島県及び近隣の子供達には保養が必要であることを、スタッフはもちろん協力者にどうやって理解してもらうか、良い方法を教えてほしい。

#### (2) 被災地の状況

- ・現地福島の情報（保養経験者数の推移、県民健康調査・検討委員会の情報、学校での甲状腺検査進捗状況、除染や帰還情報など）。
- ・現地の情報共有（コロナ禍のなかでの保養のニーズ、甲状腺がん学校検査の状況など）。

#### (3) 活動資金の確保策（3団体）

- ・資金調達方法、運営資金の確保をどのようにしているのか知りたいです。

#### (4) スタッフの確保（3団体）

- ・長く保養活動が続けていく上での、活動をにやうスタッフの確保についての工夫。
- ・スタッフの状況の変化～学生→社会人、生活の変化、年齢（高齢化）の問題など。

#### (5) コロナへの対応

- ・新型コロナにどう対策すればキャンプが実施できるかを知りたい。
- ・全体的な「保養」を取り巻く情勢の変化、コロナ後の世界・社会の変化を考えると再開する時にはまったく新しく始めるつもりでやらなければならない。

- ・今後の保養のあるべき姿。

#### (6) つながりの維持について

- ・保養中・保養後の通信の方法
- ・参加者とのつながりをどう維持していくか
- ・キャンプに協力してくれていた方たち（資金、ボランティアその他）とのつながり
- ・参加者の保護者どうしの連携方法

#### (7) 保養に代わるような取り組み

- ・私たちの団体では今年、今までの参加者に呼びかけて ZOOM での繋がりを考えている。他団体において保養に代わる計画などがあれば教えて頂きたい。
- ・コロナ禍の中、保養活動は困難だが、講演会などの広報活動はオンラインを活用し、参加者とボランティアの交流もオンライン同窓会とするなど工夫している。また、これまでの 10 年を振り返り、今後の活動を考えるため、懸案だった 10 周年記念誌も編集中。
- ・ブランク（保養ができない期間）を埋めるための具体的な活動が必要だと考えている。毎年 4、5 月に関係者にはキャンプのお知らせと協力をお願いを発信することになっているが、万一中止になった場合、地元の支援者（ボランティアも含む）みなさんと、単に「中止、開催」のお知らせではなく、10 年を経た現地の現状や問題などを共有し、話し合う機会をつくれないうか、またこれまでの参加者との交流できる場を持たないかを考えている。
- ・集まること、現地に行くことは当面難しいので、紙媒体とオンラインを使う方法で企画を立てようと思っている。

#### (8) 全国の保養団体の交流

- ・全国の保養団体交流（会）などの設置～保養の需要と供給調査 各団体の課題集約と解決方法などを探る。
- ・全国保養団体の再結集～総会などの招集（情報交換、県や国への要望など）。
- ・各地のみなさんの取り組みなど教えてほしい。

#### (9) 活動の終了に関して

- ・資金の余剰金をどこかへ託すことになると思いますが、保養について同じ考えで活動されている団体を紹介してほしい。
- ・コロナ禍で解散をした団体があると聞きましたが何団体くらいですか

#### (10) その他

- ・行政の協力・支援の有無。
- ・うけいれを希望する団体を紹介してほしい。
- ・会の事務局の設定方法と配当額。
- ・先日、避難の協同センター主催の蟻塚亮二先生講演会、「被災地のメンタルヘルスの今」に参加した。PTSD 発症率は戦争被害者と同じレベルとのこと、国内難民ととらえるべきとお話でした。そして児童虐待の増加も指摘されていました。YOUTUBE でも見られるので是非ご覧下さい。
- ・文部科学省が、2020 年度委託事業とした「子どもたちの心身の健全な発達のための子どもの自然体験活動推進事業」は、保養団体に積極的に参加してくださいとのことでした。この様子だと 2021 年度も

継続予算が出ると思うので、皆さん参加されるとよいと思う。

## 6. 現状について忌憚のないご意見をお寄せください。

### <概要>

1. 今夏の保養を実施したいと考えている団体は少ない。
2. 今夏の保養の開催を迷っている団体、難しいと判断しているのは10団体程度。
3. 解散を決めた団体、継続が難しくなっている団体は8団体程度。
4. コロナ後の保養のあり方を考える必要があると考えている団体が多い。
5. 利用者像が見えなくなってきた様子が見取れる。

### <具体的な意見>

#### (1) 今夏は保養を実施したい

- ・コロナ禍にて、昨年は保養受け入れを断念しましたが、今年の夏はやりたいと思っています。フクシマとの繋がりが、脱原発への力となり、より多くの理解者が増えますように。
- ・春休みキャンプは、参加者の方が怖がって参加しないのではないかと考えている。しかし、夏休みにはやりたいと思っている。
- ・野外活動であれば、三密が避けられるので開催可能ではないでしょうか。

#### (2) 開催すべきか悩んでいる、今年の開催はむずかしい

- ・新型コロナウイルスの影響で、保養を開催すべきか否か、非常に難しい判断を迫られていると感じています。
- ・その必要性から考えれば、保養は絶対に必要。しかし、実施に際しては多くのスタッフやボランティアが関わることもあり、感染リスクを抑えることが大切。特に福島からの移動距離が遠いこともあり、移動中のリスクも考慮しなければならない。
- ・全国の保養団体はコロナ禍での保養対応を迷い続けているのが現状だと思います。
- ・常連の参加者からは子どもからも保護者からも「今年こそは是非実施してほしい」との切なる声が沢山届いています。現在、この夏保養キャンプをやる、との覚悟で準備を進めていますが、確証は持っていません。
- ・コロナの状況を見極めて実施中止の判断をするが、どの数値、考え方を基準にしたらよいか、とても難しいと感じている。
- ・オリンピックをするなら保養もする。でも、オリンピック中止なら保養も中止かな。
- ・今年は北海道での長期保養は厳しいのではと考えております。近郊の自然体験など実施される団体の応援に回ればと思います。
- ・昨年、コロナの影響で中止し、今年も先が見えない状況です。東京を経由してくることになるツアーなので、東京の収束がないと実施は難しいと考えています。2年続けて実施が難しいとなると、再立ち上げは、かなりパワーが必要だと感じています。

#### (3) できるだけ続けていきたい

- ・コロナ、資金、マンパワーと、保養の継続が困難な状況ですが、1年でも、少人数でも、続けていきたいと考えています。

#### (4) 利用者の要望・意見など

- ・ここ2~3年、福島からの応募が減少してきているが、全国的に減少傾向なのかそれとも個別の団体での現象なのだろうか。当団体では2011年から2019年までの応募者(約300家庭)にアンケートを実施したが回答数が約10パーセント未満と低調であった。しかし、回答者の約7割は「これからも必要」と応えていた。
- ・コロナ禍中止された団体も多いと思います。保養団体が、これをきっかけに保養を取りやめてしまうのではないかと、福島のお母さん方がとても心配しています。どうか、1団体でも多く継続できたらと思います。
- ・現在の保養の必要性や要望に関して教えていただきたいです。
- ・要望があるのでしたら継続的に活動しますが、正直要望がよくわかりません。

#### (5) 解散する、保養活動の継続が困難になってきている。

- ・オリンピックで宿泊施設や交通機関がこれまで通り使えなくなる、コロナ禍で自由に動けなくなる。そんな理由で、私たちの活動はフェイドアウトしそうになっています。そもそも資金が乏しくなっており、あと1回で一旦終わろうか、という状況ではありましたが、まさかそれも叶わなくなりそうとは思いませんでした。コロナが終息した後は、保養合宿などはどう変わっていくのでしょうか。
- ・福島の子どもたちの心身の健康も心配ですし、受け入れる側の当会の会員も皆高齢者という現状です。新型コロナ感染終息の見通しが立たないなか、保養活動を続けてゆけるかどうか危惧しています。
- ・すでに、昨年5月末で、保養受け入れを終了しています。本年、1月末をもって解散の予定です。解散総会は、非常事態宣言下で、リモート会議+書面(メール含む)による簡易形式で開催することにしていきます。終了後、受入全国のみなさまにお礼のメッセージを發表させていただきたいと思いますので機会を与えていただけるようご配慮ください。
- ・新型コロナによる事業中止が、事業終了の区切りとなることが懸念されます。
- ・震災後10年となる今年の春で活動に何らかの区切りをつける予定でしたが、コロナ禍で宙に浮いた状態です。締めくくりとなる最終回をやりたい気持ちはありますが、この状況ではできるようになるのがいつになるか先が見えず、スタッフの事情やモチベーションも変わりつつあるため、むずかしいところです。
- ・大震災の発生当初から満10年支援活動を続けてきましたが、中心メンバーの家庭内事情も大きく変化し、継続することが困難になりつつあります。
- ・スタッフの高齢化により保養継続が危ぶまれる。

#### (6) 今後の保養のあり方を検討すべき時である

- ・年々、保養実施団体が減少しつつあります。そのなかで聞いたお話で、「保養」を「安価な旅行」ととらえている方が増えてきているのではないかという現実があるようです。当初とは違う「純粹な」保養”ではなくなっているのではないか。震災後、10年を迎えるなかで、今後、保養の意義を考えることは必要ではないか。
- ・3.11から10年、思いもかけなかったコロナ災害。原発事故とは違うけれど同じような局面~複雑な思いです。2月13日深夜 震度6強の地震がまた東北(それよりもっと広範囲に)起こり、文字通り震撼しました。この時代、「保養」はどうあるべきか、問い返されているという思いです。
- ・昨年は保養を試行錯誤しながら米沢と佐渡で開催しました。「保養の基本」や「定義」を自分たちなりに掴んでいたから実施に踏み切れたと思っています。1)線量の高い所から低い所で心身を休ませる、2)福島でやれていない自然の中の活動をやる、3)排泄を促す活動や手当法をやる等です。免疫力

を上げることはコロナ対策にもつながると考え、移動制限がかからない限りコロナ対策を取って実行しました。なので、受入れ全国の中でも「保養とは何をやることなのか」を探り、要点を押さえた上で保養をやる必要があるのではないかと考えています。現在の冬のコロナの状況はかなり厳しいと考えていますが、夏の状況次第では保養ができるかもしれません。保養ができないなら学習会をやる、情報交換をやる、募金をするなどできることを探っていくことが必要ではないかと思っています。このままでは保養が無くなりかねないという危機感を持っています。余談ですが、昨年の夏の保養の様子、なぜコロナ禍でも保養をやったか、保養とは何かを映像にとって編集中です。4月中には完成させたいと思っています。

- 新型コロナ感染拡大防止を発端に、保養団体や保養参加希望者それぞれの課題が浮き彫りになっていくと思います。各団体や保養希望者の現状をこのアンケートで読み取り、うけいれ全国のネットワークや多様性を活かした活動を継続していければと思います。
- 2~3年前より現地の保養ニーズが低下してきたように感じていたが、10年の経過と新型コロナウイルスの出現でさらに低下していくのではないかと予想できる。また受け入れ側としては、スタッフの高齢化や離脱、資金不足などにより実施規模の縮小を余儀なくされている。残ったスタッフで「福島を忘れない」の合言葉でなんとか維持している。これまで保養に特化して活動してきたが「保養」に限定せず新たな取り組みを模索している。
- 保養の減少傾向は、スケジュールが合わない、保養受け入れ団体が少ない、子どもが大きくなった、当初より線量が低くなったなど様々な要因が考えられるが、低線量被ばくへの不安はぬぐえないでいると思われる。一方、社会の風化とともに受け入れ団体の課題としては、スタッフの高齢化と離脱、新規のスタッフが集まらない、安定的な資金の確保が困難、行政の協力が低下してきたなどが挙げられる。コロナ禍で保養が中断されたこの機会に、「保養」に固執せず新たな取り組みができないか模索しているところである。残ったスタッフで「福島を忘れない」を合言葉にこれからの在り方を探っている。

#### (7) その他

- 保養参加者対象ではなく、保養団体対象の相談会を実施してほしいと思います。そこでコロナ対策や旅行業法対策、安全管理の情報共有ができれば一歩も二歩も前進できる気がします。
- 子どもだけの保養のため、現地までの送迎がしんどくなってきている。その点を福島側で担っていたらと、もう少し継続可能になる。
- 加盟団体でなくても助成金申請できればいいなと思います。
- 少しでも早く収まってくれることを祈るばかりです。
- このような状況の中で、色々な繋がりのためにご努力頂き、ありがとうございます。
- 精力的なご活動に敬服いたします。自分たちの保養プログラムだけで手一杯で何も協力できず申し訳ないです。

## 保養利用者に対するアンケート調査

・調査期間…2021. 01.14～02.19

・調査対象者…「311 受入全国協議会」加盟団体が主催した保養プログラム利用者への呼びかけ

・回答人数…67 名

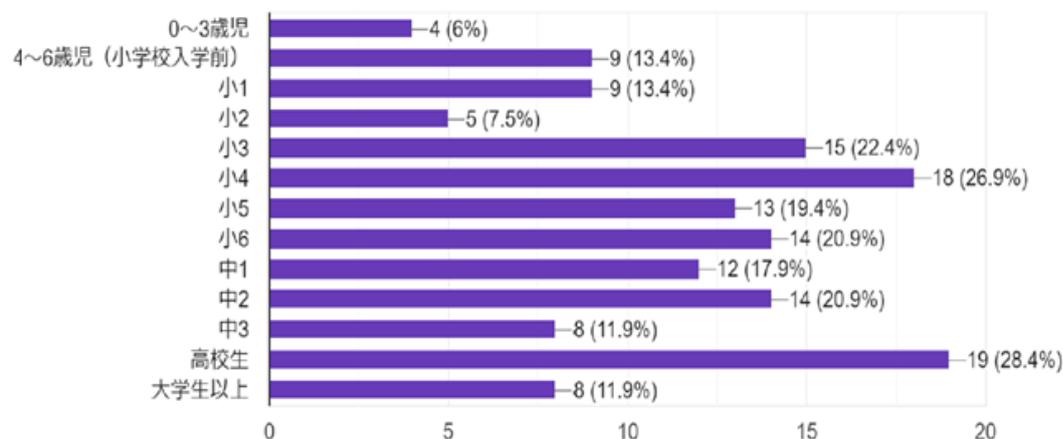
### 1. 現在、お住まいの市町村

表 1 現在住んでいる市町村

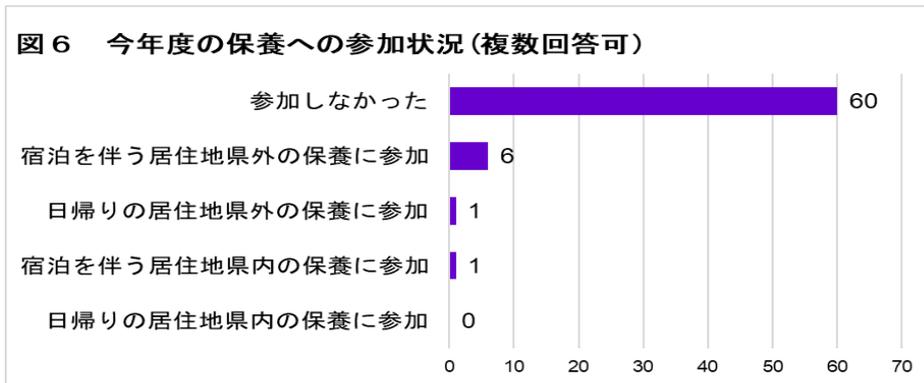
福島市	19 名	本宮市	1 名
いわき市	17 名	三春町	1 名
郡山市	11 名	桑折町	1 名
伊達市	3 名	川俣町	1 名
須賀川市	3 名	千葉県我孫子市	1 名
二本松市	2 名	千葉県流山市	1 名
白河市	2 名	千葉県松戸市	1 名
矢吹町	2 名	栃木県大田原市	1 名

### 2. 現在の子どもの学年（2名以上いる場合は全員が対象）

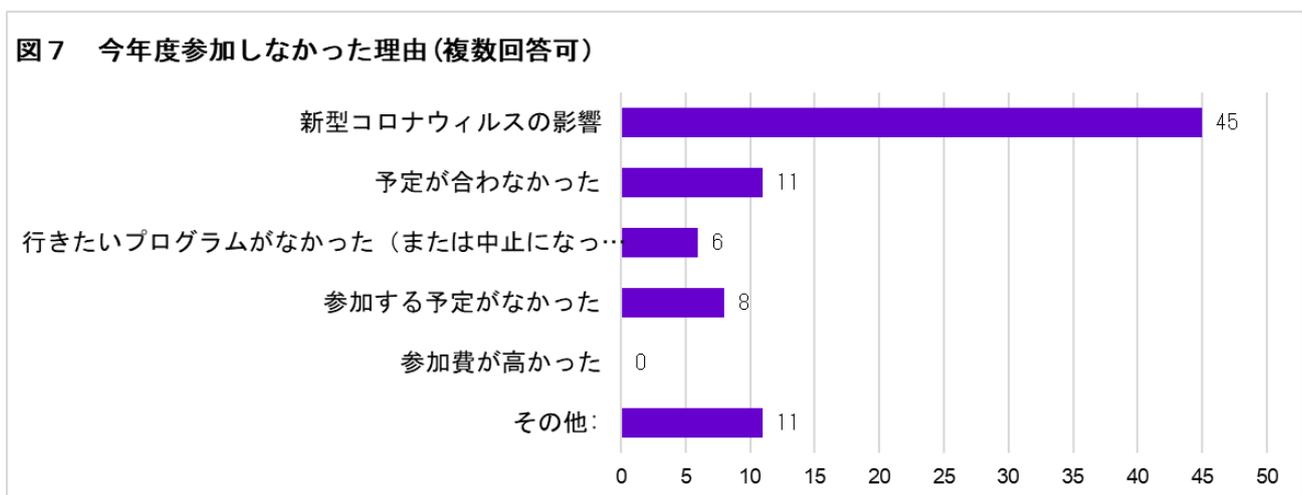
図5 現在の子どもの学年



### 3. 2020年度の保養への参加状況



### 4. 今年度の保養に参加しなかった理由(参加しなかった人のみ)



その他：職場での不要不急の外出、県外者との接触禁止のため。

子どもが成長して外遊びの需要がなくなった。

小児がんになってしまった。

6年前から行けてません。

年齢が大きくなったため。

大学受験を控えているため。

子どもが大きくなったので参加枠を小さいお子さんにと。

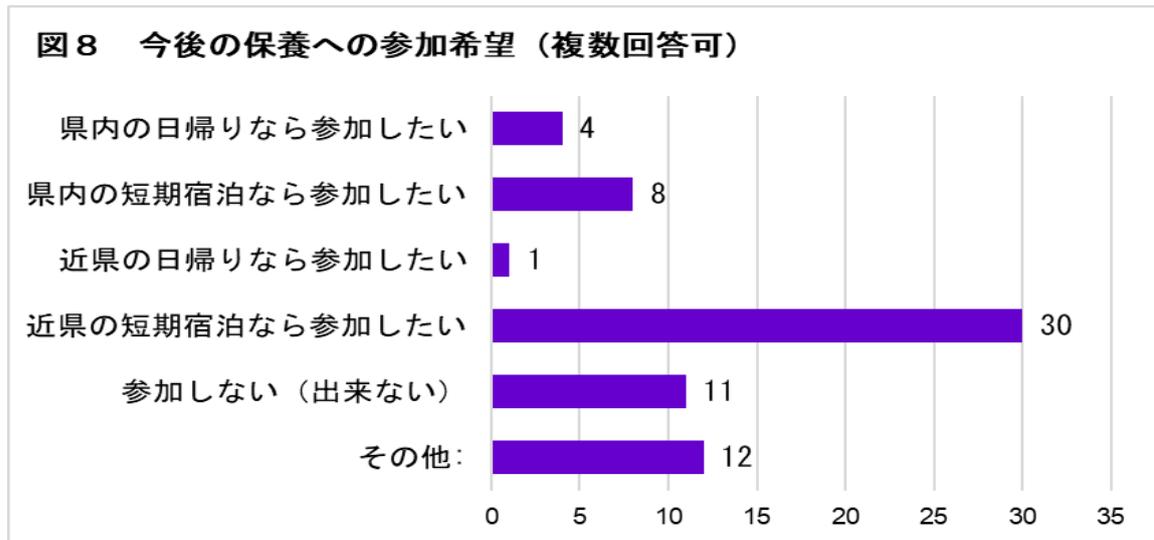
子どもがすでに成長している。

募集がなかったため。

子どもが成長し保養に行かないと本人が言ったから。

子どもが成長し、参加する時間がなくなってしまった。

## 5. 新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていた時期の保養への参加希望



その他：県内でも線量が気にならない場所へなら参加させたいです。

当分、落ち着く気がしない。

参加したいです。場所は問いません。

子どもが大きくなり保養に行ける機会もなくなりました。

母子家庭なので、お金に余裕もなく行けません。

子どもの成長と共に時間を合わせるのが難しい。

持病もちの家族がいるから

オリンピックが開催するのならば県外移動は厳しいと思います。

中学生や高校生の保護者枠などがあれば参加したい。

上の子が来年度受験生なのでどうするかまだ未定です

子どもが参加したがるらない。

できれば福島から遠く離れた場所での保養を希望します。

地元より数値が低い場所なら是非参加したい。

## 6. 現在不安に感じていること・心配なこと（コロナ禍、生活、学校なんでも）

### <概要>

1. コロナ禍のなかで、子どもの学力や体力の低下、ストレスの蓄積を心配する人が多い。
2. ワクチンに対する不安の声もある。
3. コロナの感染や先が見えない点に不安を感じている人が多い。
4. コロナ禍によって保養がなくなってしまうのではないかと不安という声もある。
5. 放射能、放射線量の心配を指摘する人もいる。

### <具体的な意見>

(1) 子どもの学力・体力低下やストレスなどの心配

・自粛が続いていて、子ども達の体験活動が制限されていること。体力が落ちていること。

- ・また子ども達に外で自由に遊ばせてあげられないことが不安です。大事な時期に体を動かすことができないのは、筋肉や骨、体のあちこちに影響してくるだろうし、精神的な面でも発散する事ができず、大泣きする事が増えてしまいました。
- ・周りへの影響を考えると、できるだけ感染対策をし、感染を何としてでも食い止めたい。そのためこの1年、帰省、県外遠出、外出、外食は控えている。子ども達は、長期休暇などに気分転換する機会が減り、毎年の楽しみが無くなってしまったため、ストレスがたまってしまっているように見える。
- ・中学生の息子は、このご時世で自宅に居ることが増え オンラインゲームでの親の知らない世界が広がりすぎて不安を感じている。
- ・今まで当たり前だった学校での活動や生活ができず、子ども達も大人もだいぶストレスは感じています。自分や家族が感染したら、学校、職場での反応や、生活が怖いです。
- ・コロナにもし感染してしまったら、また休校になってしまったら、と考えると、ただでさえ学力に不安の子どもの更なる学力低下が気になります。
- ・コロナ禍、学校の学習面。
- ・コロナ感染もあるけど受験やら学力低下。来年度の生活もどうなることやら外出も少なめなので体力への不安も募っていますがとりあえず元気に頑張りたい。
- ・来年度6年生で、修学旅行など、学校行事のこと。
- ・震災、コロナと自分の力ではどうしようもない無力感からくる不安耐性の低い子どもの精神的ケア。大人にもっと余裕がないと子どもの力になってあげられないのでは。共感共有ができる環境があれば子どもは自立しやすいのでは。
- ・コロナ禍で、子ども達がのびのびとリフレッシュできる所に行けてない。
- ・コロナで県外に子どもを出せない。

## (2) コロナのワクチンなどについて

- ・コロナの検査件数はなぜ増えないのか。
- ・コロナのワクチンは安全なのか。
- ・ワクチンはどのくらいの期間有効なのか。
- ・コロナ・放射能・経済。自分でどこまでできることがあるのか。
- ・予防接種の副反応も心配です。
- ・環境や価値観の違いから、コロナ対策の基準の違いに不安を感じることもある。放射能に対してもそうだったと震災を思い出しました。

## (3) コロナに関する不安や対応

- ・コロナ自粛がいつまで続くのか。学校に普通に通わせて大丈夫なのか。
- ・身近なところでコロナ感染があり、入院中に亡くなってしまいました。改めて恐怖を感じ自分や子どもたちも、もしかしたら…と思うと不安で仕方なくなります。
- ・一番の不安はコロナのことです。
- ・いつになったら以前の生活に戻れるのか。
- ・いつまでこの生活が続くのか。
- ・色々制限があったり大学の授業もリモートになり修学旅行も中止になったりと、当たり前の生活ができなくいつまでこの生活が続くのか見通しがなく不安です。
- ・コロナが落ち着くとは思えない。恐らく対応が後手に回りオリンピックも中止になるでしょう。第一原発の始末だってオリンピックで目隠しした政治家のすることなので。

- ・学校、幼稚園などでほとんどの行事がなくなり寂しい限りですが、今は我慢で先ず感染症にならないよう気をつけて生活しようと思っています。
- ・密にならない場所に行って遊ぶか家での遊び。
- ・コロナ。コロナ禍。コロナ関係。
- ・コロナの早急な終息。
- ・コロナ感染への不安。
- ・コロナが終息しないと外出は心配がある。
- ・コロナにかかった場合の対人関係。
- ・自由に過ごせない環境になってしまったと感じています。
- ・発熱や風邪症状があると、本人と家族も学校や会社を休まなければならない。またコロナ感染が確認させると、クラス生徒も濃厚接触者となり、2週間休校しなければならない。
- ・震災から10年 もっと自由に行動できるかと思っていたのに、ますます不自由な環境に戸惑っている。
- ・いままで当たり前感じていた日常が、とても幸せな事だと感じる今。先の見えない状況に疲れを感じています。原発の時のように、感じ方考え方が違うので、心無い言葉や態度に傷つくことも。
- ・福島の子どもたちは原発事故で我慢を強いられ、今度はコロナで様々なことを制限されて、かわいそうでなりません。
- ・放射能汚染、廃炉作業。コロナの影響による外出自粛やマスクの着用で、原発事故当時のようなストレスを感じています。

#### (4) 保養がなくなってしまうのではないかとという心配

- ・コロナ禍で保養がなくなってしまうこと。
- ・コロナ禍で保養が随分減っており、震災から10年ということもありこのまま保養がなくなってしまうのではないかと不安です。
- ・コロナ禍で3.11関連の身体への影響や避難生活の悩み等の話がさらにしにくくなっていること。10年目になるにあたり、避難などとは縁遠い方々との格差を感じて落ち込んでいること。10年が空虚に感じる。保養が続けるのが難しくなるであろうことが、とても不安です。せめて中学終までは短期でよいので安心できる自然にふれあわせたいと、心から願っています。
- ・コロナはもちろんですが、その陰にかくれて福島の子どもたちのことが忘れられてしまうのがもっと心配です。

#### (5) 放射能などの問題

- ・放射線量
- ・まだ廃炉が進んでないこと。
- ・コロナ禍で、放射線量や福島県産のものへの不安。
- ・震災から10年経とうとしていて放射能の影響が怖いです。
- ・都内に出るのを控えているため、毎年継続していた甲状腺検査を1年していないこと。
- ・コロナ禍で放射能よりもコロナの恐怖が大きくなり風化してしまうのではないかと不安。
- ・コロナ禍ですが、コロナ以外にも原発など不安があります。

#### (6) その他

- ・どんな状況でも前に進んでほしい
- ・なし

## 7. 今後の保養実施について、開催に関する希望や在り方への意見など

<概要> 多様な意見があるので、下記の7点にまとめてあります。

1. 10年の間に状況が変化している。
2. 保養を開催してほしい、なくさないでほしい。
3. コロナが終わったら参加したい。また機会があれば参加したい。
4. 保養を開催する場合の対応について。
5. いま開催するのは難しい、やめたほうがいい、いまは我慢の時である。
6. 保養団体に対する感謝の言葉。
7. その他

<具体的な意見>

(1) 10年の間に状況が変化したことについて触れた意見

- ・いつも福島の事を考えて頂いてありがとうございます。震災から間もなく10年になりますが、保養に対する考えが年々変わってきました。初めは新鮮な空気の中で子どもと過ごしたいと思っていましたが、子どもが大きくなるに連れ色々な体験をさせてあげたいと思うようになりました。
- ・保養に対する主催者の方と私の思いが違っているのではないかと、参加させてもらう事にためらいが出てきています。ただ子ども達のためとの思いは変わらないので、機会を頂けたら参加したいなと思っています。
- ・精神的な面で、今までお世話になった方々に会いたいです。子ども達が大きくなり今度は、誰かの手助けができればと考えています。
- ・これからも保養を続けて頂けたら嬉しいです。しかし、保養参加者が震災後産まれた幼稚園児ばかりだったりする保養がある事に最近違和感があります。
- ・子どもたちも大きくなり、保養に行ける年代ではなくなりました。現時点子どもたちは震災も経験はしていませんが、災害は経験しないことに越したことはありませんが、震災当時は小学生、高校生だった息子たちも社会に出ています。下の子は今年高校卒業で4月から社会人になります。
- ・10年が経とうしている現在は回りからの理解を得る事が困難になってきている。
- ・来年度、高校生になる娘が、次はボランティアでお手伝いする立場として参加してみたいと言っている。
- ・コロナがおさまリ安全になってからの方が川崎の皆さんと元気に再会したいですが、下の子も中学生になるのでますます会える機会が減ってしまうのが残念です。
- ・今は保養の機会も無く、子どもたちの置かれている状況は厳しくなる一方です。
- ・四月から中学生になるので、保養に参加したくてもスケジュールによっては難しくなるのかもしれないし、そもそも中学生対象のものが少ないので今までのように参加できなくなるのは残念に思っています。
- ・これまで通り保養の対象が幼児や小学生となるなら、震災当時被曝しなかった子どもたちということになってしまうし、母親自身も被曝してないということも出てきて、単なる楽しいイベントとなってしまうのは、主催者の皆様のご苦勞が無駄になってしまうのではと危惧しています。

(2) 保養を開催してほしい、なくさないでほしい

- ・子ども達のために保養開催してほしい。
- ・いわき発の保養希望。
- ・保養があるのは有り難いので、可能な限りあればありがたいです。

- ・これからもよろしくお願ひします。
- ・参加者の費用負担が多少増えても結構です。回数も少なくなっても構いません。福島の子どもたちが参加できる機会をもう少し続けていただけたら嬉しいです。
- ・病気のため保養には行けませんが、元気になったら少しずつ参加したいです。息子は北海道に船に乗って行ったことが楽しくて、元気になったらまた行きたい・やりたいことの一つに「ほっこりプロジェクトに参加すること」があります。その時まで、是非保養を続けてほしいと思います。
- ・保養の方々も、資金が大変だと思う。それでも、保養が無くなるのは止めてほしい。
- ・このまま風化してしまうのでは。と危惧しています。
- ・まだまだ小さな子ども達のために、継続をお願い致します。
- ・いつかまた、こども達が元気にのびのびと過ごせる場を必要と思います。人と人と、同じ空間で、同じ時を過ごせるように、その日を切に希望します。
- ・多くの方々が大変な時勢の中、こちらの希望を伝えることに遠慮がありますが、可能な限り続けて受け入れを頂けたら有り難いです。ただただ、感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・今後も保養をずっと続けてほしい
- ・保養に参加し、放射能の少ないところで過ごしたい。
- ・今後も、子ども達にまた色々な体験経験の機会をいただければと思います。

(3) コロナが終わったら参加したい。また機会があれば参加したい。

- ・今年度、コロナの心配をしながらも一度だけ保養に参加しましたが、保養の大切さを痛感しました。コロナが落ちついたら、また是非受け入れしていただきたいです。
- ・コロナが落ち着いたらぜひ参加したい
- ・以前のような保養は、難しいのかなあとありますが、上の子たちが保養に参加させていただいた事で、とても成長できたし、お友達ができたり、素晴らしい経験をさせてもらえたので、また保養の募集があれば、参加させたいです。
- ・人が集まっての移動やイベント参加がなかなかできないため、主催される方々も悩ましいと思います。落ち着いたたらまた開催してほしいです。
- ・前回の参加の記憶がとても楽しかったので、何かの形でまた参加できればと思います。
- ・また機会があれば保養に参加したいと思いますが、こんな時代になってしまったので、事務局の皆様もご無理なさらず健康に過ごしてください
- ・コロナが終息し、感染の不安がなくなったら参加したい。
- ・コロナの影響で、保養の実施は様子を見ながらになってしまうのは仕方ないと思います。落ち着いたたら是非また再開してもらいたいです。保養に行きたい子どもたちは今も沢山います。
- ・何度か保養でお世話になり、子どもに良い刺激をもらいました。コロナも落ち着いたたらまた参加したいです。

(4) 保養を開催する場合の対応について

- ・開催する場合は、1家族だけ、あるいは他の家族との接触を持たないように、時期や場所を離すなどが必要になると考えます。
- ・帰還困難地区周辺地域に帰還して生活する人達など、支援地域を限定し、より原発に近い地域に住んでいる人を中心に支援されてもいいと思います。
- ・被害があった子ども達は大きくなりました。高校生以上や中学生なら子どもだけで参加できれば、受け入れて頂く方々にも費用面等もかからなくて良いのではと考える事があります。

- ・経験できないことをさせたいので、夏なら川遊びや海水浴、砂遊びなど。やはり、少人数でやるのが理想的ですかね。
- ・保養の絡みが、週末ばかりなので、長期休暇中の保養は別に週末に合わせなくてもよいものが有れば嬉しいな、と思っていました。
- ・コロナ禍で全国的にも大変なときに、福島に心を寄せてくださり、とてもありがたいです。家族で行動できるような形だと、コロナ感染のリスクも下がると思うので、そのような形のものもあるといいのかもしれないです。
- ・受け入れ側と参加する側、そのどちらもがコロナ感染予防対策を万全にしながら実施するのは簡単な事ではないと思います。今後募集する際にはルールを明確にし、参加する側にも決まりを遵守するよう求めていかないと参加する側の意識の統一が保たれないと思います。コロナが季節性疾患となるのはまだ先なのでしょうね。不安ですよ。
- ・参加者はワクチンを打つ、もしくは PCR 検査をした、など、参加条件に安心できる項目を設けたら良いと思います。
- ・コロナ禍で数少ない保養に参加させていただきましたが、主催者側で密にならないようにと考えてくださっても、どうしても楽しさで子どもたちは密になってしまうようです。
- ・10年経った今、その子たちやお母さんたちが参加できる保養あったら良いですね。

#### (5) いま開催するは難しい、やめたほうがいい、いまは我慢の時

- ・コロナ禍で参加する側、受け入れ側ともに、感染のリスクがあるので、開催することはやめた方がいいのではないかと思います。
- ・今まで福島の私達を思い、保養を開催して下さった方々を、危険に晒すことは絶対にしたくないです。
- ・コロナがおさまらない限り、保養の実施は難しいのかなと思います。
- ・いろいろ考えると、完全終息まで開催しないのが得策なのでしょうか。我が子達はその分大きくなり、一緒に出掛けてくれなくなりますが…
- ・今この状況で自分たちがこんなに楽しんで良いのか、と自問自答しております。子ども達にとってはとても貴重な経験をさせていただきありがたいとは思いますが やはり コロナ収束を一番に考えてここはジッと我慢の時と思います。
- ・複数県から集まり、集団生活をする保養はしばらく難しいと思います。移動手段と保養先の理解を得られたら、身体を休めるだけの保養は可能かもしれません。でも、保養者同士の情報交換や保養先での交流が、コロナ感染予防を考えると難しい。これは保養のもうひとつの大きな意義とっているので、残念です。
- ・保養は母子ともにホッとできる機会でした。今は線量よりもコロナへの不安が強く、また、心配不安は拭えません。
- ・コロナで今は、保養自体が難しいのかと思います。今は大人が行動を自粛し、一日も早く終息するようお願いばかりですね。子どもたちは、学校行事も無くなり、友達とも会えず、思い出も作れない。がまんがまんの日々です。

#### (6) 感謝の言葉

- ・皆さまのご健康 お祈りいたします。
- ・いつもどうもありがとうございます。またいつか会える事を願っています。
- ・いつも私達の事を考えて頂きありがとうございます。

- ・震災から今年で10年になります。当時は保養で大変お世話になりました。
- ・本当に素敵な時間を過ごさせて頂いたと思っています。
- ・何度か参加させていただき、まずは感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・あの頃は子ども達もまだ小学生で外で遊ぶこともできない中、保養に参加し思いっきり外でたくさん遊ぶことが出来て本当に救われました。ありがとうございました。
- ・震災から間もなく10年経ちますが、今でもこのような保養を続けていただき感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・震災から10年を迎え、変わらず被災地の事を思っていて下さる事に感謝です。できる事なら、また保養に参加して、顔なじみのスタッフや参加者の皆さんとお話したいです。
- ・保養を主催されている方々には敬意を表します。子どもが成長して今後参加の予定はありませんが、改めて今までの保養にお礼を申し上げます。
- ・こんな時でも保養開催を考えてくださって、うれしいです。
- ・ありがとうございます。
- ・いつもお世話になっております。
- ・今後ともよろしくお願いします。
- ・皆様のご厚意がありがたく、本当に嬉しくて楽しみにしております。
- ・今後保養に参加できなくなってしまうと、これまでの繋がりがなくなってしまうのは寂しいです。
- ・いつもありがとうございます。
- ・いつも福島のことを思っていてくださり、感謝しております。

#### (7) その他

- ・自粛生活に慣れてしまいのおんぴり家が楽に感じ、出歩く気分が今はわかりません。
- ・長期間、数度参加する保養の費用が負担になっている。
- ・震災の時に「福島」「いわき」のナンバーを付けた車が県外に行くと嫌な思いをしたものです。歴史は繰り返し、今も県外に行ったとなれば犯罪者扱い。田舎なのですね。
- ・皆さんに会いたい。でも会えば近くで話したくなる。皆さんに会いに行くことを秘密になどしたくない。
- ・今年度、娘が小6で、保養に参加できるのが最後の団体さんもあったなか、コロナのために、行けることになっていたものが中止になったり、開催事態がなくなったりと、残念な思いでした。
- ・まだまだ原発の影響はあると思いますので、少しでも早く廃炉が進み、元の生活に戻してほしいです。
- ・福島ではまだまだ線量の高いところも多く、廃炉作業も常に危険と隣り合わせです。復興一心で線量の高いエリアへ帰還させる動きもあります。
- ・コロナのせいで各施設が利用できないので、公園遊びを容認しています。
- ・みんなどのように過ごしているのでしょうか？
- ・保養開催者は外出規制などもきちんと守っている人たちだと思っています。自分も守っているので、感染リスクは低いと思いますが、休校になったりしているのも万が一迷惑をかけてしまったらとも考えてしまいます。
- ・保養に何度も参加させて頂きありがとうございます。10年前、福島原発事故が原因で子供達の活動が制限されてしまい不安な日々を過ごしました。
- ・今は、世界規模でコロナ感染の心配から活動が制限されている子供達です。
- ・ワクチンが打てれば終息していくでしょうし、原発事故程、深刻ではないと思いたいです。・・特にないです。

## 〈3.11〉の始まりから10年を迎えて

## 311 受入全国協議会

2011年3月11日に起きた東北地方沖を震源とする未曾有の大地震は、その後10年を経た現在もなお続いていく複合被災をもたらしました。「東日本大震災」と名付けられたその総体は、津波被災地に対する地元民を無視した大規模公共事業による郷土の破壊や、東京電力福島第一原子力発電所のメルトダウン事故による広大な土地の放射能汚染および被曝、そしてそれらによるコミュニティの破壊といった人災的な側面も含んでいます。2011年3月11日は、複合被災が「起きた日」ではなく、それが「始まった日」でした。原子力緊急事態宣言は、10年間を通して発令中なのです。

深刻なメルトダウンの状況から、大量に放出された、そしてなおも異常な規模で漏れ続けている放射性物質による汚染が、10年どころではなく、30年、50年と続かざるを得ないことは、事故の直後から分かっていたことでした。そして放射性物質は目には見えず、低線量被曝の影響も論争的で、原発事故の責任者である日本政府および東京電力は被曝回避措置を最小限にしかとらないだろうことも予想されたことでした。

それゆえに、放射能汚染地域から人びとが自主的に（つまり自己負担で）避難・疎開・移住するという動きとそれを受け入れ支援する全国の市民の動きが自発的に始まったのであり、また、避難・疎開・移住ができない家庭の子どもたちのために全国で「保養」を定期的に企画する団体と、また被災地のなかで保養を広める地元の団体も、数多く立ち上がったのでした。そうした被災地内外の全国の団体が、相互に知恵と工夫を共有し、励まし合い、息長く活動を維持・発展するためのネットワーク「311 受入全国協議会」（略称：うけいれ全国）を結成したのは、原発震災が始まった2011年の翌年2012年のことでした。

\*

幸い「うけいれ全国」は、さまざまな寄付金や助成金を寄せていただき、福島県を中心とする被災地での相談会を開催したり、加盟団体の保養活動に対して助成金を配分したりすることができました。関心を寄せ続けてくださった全国のみなさまに深く感謝いたします。上記のように通常自然災害とは異なり、10年を経た現在も放射能汚染と新たな放射能漏れという巨大な障壁が根本的な「復興」の実現を遠ざけ続ける中、終わりが見えない支援活動が求められています。これは前代未聞の長期的災害支援です。

しかしながら、私たちも含め人びとの気力・体力・財力には限界もあり、政府・東電が責任を取らないなかで、風化・関心低下という「時の試練」にも耐えなければなりません。頭では10年どころではない取り組みにならざるを得ないことは分かっていますが、実際に活動を継続させることは生易しいことではありませんでした。こうして原発震災の始まりから10年間を迎えてみて、まずは原発事故被災地に暮らしながらとくに子どもたちの被曝回避に苦心されてきた方がた、そして全国で避難や保養の受け入れ活動をされてきた方がた、さらには関心を途切れさせることなく寄付など

の支援を継続されてきた方がた、すべてのみなさんの労をねぎらいたいと思います。  
お疲れさまでした。

＊

そうした原発震災の始まりから10年目は新型コロナウイルスの流行下で、対面交流をこそ旨とする現地相談会および全国の保養企画とが著しく制約された状況にあります。いつかはコロナ禍は終息すると信じ、そして被災地と保養先とで再会できることを信じ、約一年を耐え忍んできました。オンラインでの会議や交流によって関係性を維持しつつ、もうしばらく我慢をしなければならないのは、とりわけ保養を必要とする人びとにはさらなる試練の時であろうと推察します。

また、2011年の原発事故発生時にはしきりに「安全キャンペーン」が打たれて、放射能汚染や被曝被害があたかも20km圏内にしかないかのように過小評価しようとしていたのに対して、新型コロナウイルスの感染者が東京・大阪、そして札幌・名古屋・福岡といった大都市圏を中心として広まっていたこともあり、マスクや消毒が全国で徹底されていることを見ると、その対応の落差に複雑な思いを禁じ得ません。東北地方と首都圏の格差と、そして国策としての原子力行政を前にして、やはり被曝回避の活動は自発的なネットワークに頼らざるを得ないのだろうかと思わせられました。

＊

コロナ禍のもとで迎えた10年目の〈3.11〉に、みなさんと苦境を分かち合いつつ、遠からず相談会や保養の場で再会できることを強く願ってやみません。

2021年3月11日